様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ３０ 年　 ６ 月　 ７ 日現在

機関番号：１４４０１
研究種目：挑戦的萌芽研究
研究期間：2015～2017
課題番号：１５Ｋ１３００７

研究課題名（和文）制度設計が社会規範に与える影響の経済学的分析

研究課題名（英文）Economic Analysis of the Institutional Effects on Social Norm

研究代表者
佐々木　勝（Sasaki, Masaru）

大阪大学・経済学研究科・教授

研究者番号：１０３４０６４７

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,800,000円

研究成果の概要（和文）：研究期間内に合計25回の経済実験を実施した。実施場所は、大阪大学の経済実験ラボだけでなく、もっと幅広く実験参加者を集めるために、関西大学経済実験センター（CEE）やミャンマーのヤンゴン経済大学でも実施した。これまで研究成果を国内外の学会やセミナーで報告をし、様々なフィードバックを得た上でよりより研究論文になるように鋭意分析をしている。第10回行動経済学界では招待公演を行なった。また、ESAが主催する国際学会に参加し、研究成果を報告した。追加実験を含めた研究成果を、2018年6月にフンボルト大学（ベルリン・ドイツ）で開催される国際学会で報告する予定である。

研究成果の概要（英文）：We have so far conducted experiments in 25 times not only at Osaka University's lab but also at labs of other institutions such as Kansai University (Japan) and Yangon University of Economics (Myanmar) to increase the variation in subjects by characteristics or backgrounds. We presented our research results at various domestic and international conferences/seminars (the Asian-Pacific Meeting of the Economics Science Association, Asian Meeting of the Econometric Society, ESA World Meeting, North-American ESA Meeting, and the 10th Annual Meeting of the Association of Behavioral Economics and Finance). We conducted additional experiments and will present new results in the international meeting held at Humboldt University (Berlin) in June, 2018.

研究分野：経済学

キーワード：実験経済学　行動経済学　社会規範　モラル　市場メカニズム　投票制度　委託・委任制度

１．研究開始当初の背景
研究開始以前から、伝統的な経済学では、個人の選好は変化しないものと想定し、経済環境の中で自分の効用を最大にするように合理的に行動するものと考えられてきた。その際、人々が金銭的なインセンティブに対してどう反応するかという点にのみ研究の焦点が与えられてきた。しかし、人々は市場システムで規定される金銭的なインセンティブにのみ反応するのではない。人間は、互恵的な行動すべきとか、利他的な行動をすべきという社会規範に基づいて行動することが多い。人々の行動が狭い意味の市場規範だけではなく社会規範に基づいているということは、近年の行動経済学の研究の蓄積によって明らかにされてきた。既存の研究の多くは、社会規範によって人間の行動がどのような影響を受けるか、市場規範との関係はどうなっているか、ということに焦点が当てられてきた。しかし、最近では、市場メカニズムの導入が社会規範をどのように変化させるかという研究が始まっている。例えば、Falk and Szech (2013)の最新の研究では、市場メカニズムの導入が人間の持つ社会規範に与える影響を実験室実験から観察した。研究開始当初、社会規範の決定要因や制度の探求は、今後課題となる社会的問題のソルーションを見つけ出すために必要であった。

２．研究の目的
経済活動を規定する制度や経済システムと社会規範の関係に関する研究は、最近注目されているが、国別データによるマクロ分析に限定されている。個人レベルの社会規範に着目した研究はデータの制約上少ない。本研究の目的は、制度が個人の社会規範の遵守に影響を与えるかを経済実験からデータを収集し検証することである。具体的な制度として、（１）市場メカニズムの導入、（２）投票ルールによる集団決定プロセスの導入、（３）委託・委任制度の導入を取り上げる。そして、社会規範の遵守を測る指標として、「発展途上国の子供達にワクチンを寄付するかどうか」を採用する。制度を外生的に導入することで、被験者が報酬を受けとるよりもワクチンを送付することを選択すれば社会規範を遵守する意識が高まったと判断できる。本研究では、特に経済実験における最適な方法について検討・考察することに重きを置く

３．研究の方法
第一に、経済実験を実施するための実験環境を整える。具体的には、（１）実験室の整備（実験を遂行する上でのプログラムのインストール、パーティションの設置、PC のバージョン・アップなど）（２）被験者の招集、（３）実験用インストラクションの作成、（４）経済実験用のプログラムの作成である。被験者として研究代表者や研究分担者が勤める大学の学生を招集する。第二に、経済実験を実施する。実験内容は、（１）市場経済メカニズムの導入、（２）投票による集団決定プロセスの導入、（３）委任・委託制度の導入であり、それらが被験者の社会規範に与える影響を観察する。各実験は複数回実施し、できるだけ実験データを増やす。第三は、実験から得られたデータを分析することである。実験データから被験者の社会規範の欠如・遵守を決める要因を探り、社会規範を遵守しながら個々の利益を追求する市場システムや制度設計を模索する。最後に、研究結果を論文にまとめる。研究論文は学会で報告し、国際学術誌に掲載されることを目指す。

４．研究成果
本研究は、平成 28 年度から採択された「JSPS 課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業」（実社会対応プログラム）の研究と連動している。この研究プロジェクトは継続しているが、現在の時点での研究成果は以下の通りとなる。

（１）　経済実験の実施
この 3 年間で合計 25 回の経済実験を実施した。特に、「投票による集団決定プロセスの導入による社会規範への影響」に関する研究の経済実験は 12 回実施した。実施場所は、大阪大学経済学研究科、および社会経済研究所の経済実験ラボだけでなく、もっと幅広く参加者（被験者）を集めるために、関西大学経済実験センター（CEE）やミャンマーのヤンゴン経済大学やモンユア経済大学でも実施した。特定の学生を被験者にするのではなく、異なるバックグラウンドを持つ被験者から実験データを収集することで、より普遍的に仮説検定ができ、比較分析が可能となった。

（２）　研究成果報告
「投票による集団決定プロセスの導入による社会規範への影響」に関しては、これまで研究成果を国内外の学会やセミナーで報告し、様々なフィードバックを得た上でよりより研究論文になるように鋭意分析をしている最中である。国内では、第 10 回行動経済学会（一橋大学）において講演に招待された。海外では、the Asian-Pacific Meeting of the Economic Science Association, Asian Meeting of the Econometric Society, ESA World Meeting, North-American ESA Meeting に参加し、論文を報告した。一度論文としてまとめられたが、追試実験の結果も含めてまとめるため、現在改訂中である。追加実験を含めた研究成果は、2018 年 6 月にフンボルト大学（ベルリン・ドイツ）で開催される国際学会で報告する予定である。「委任・委託制度の導入による社会規範への影響」に関しては、主にミャンマーのヤンゴン経済大学やモンユア経済大学の学生を実験参加者（被験者）として実施した。多くのミャンマー国民は仏教徒であり、利他性が高く、寄付をする

傾向が高いと言われている。両校の研究者の協力を得て、現在データを分析し、今年中に論文を上梓する予定である。「市場経済メカニズムの導入による社会規範への影響」は大阪大学の学生を実験参加者（被験者）として数回実験を実施した。実験結果をまとめて論文にまとめる予定である。

（３）　派生研究
当初の研究内容に加えて、研究内容に関連する派生研究も行った。社会規範を決定要因の１つとしてリスクに対する態度や損失に対する態度が考えられる。各個人が持つリスク回避性や損失回避性を測ることは大変難しい。派生研究の１つとして、それらの２つの回避性の指標を経済実験から算出することを試みた。また、人々はリスク回避性向にあるのか、それともむしろ損失回避性向にあるのかを識別した。本研究に関する経済実験を数回実施し、まとめられた研究成果は国内外のセミナーやコンファレンスで報告し、様々フィードバックをもとに現在改訂中である。その他の派生研究として、時間非整合性に関する経済実験を実施した。行動・選択の先延ばし傾向は規律の妨げと考えられる。先延ばしをやめるために必要な commitment device として learning process を導入し、その効果を検証した。この実験に関しては数回プレ実験を実施し、近々本実験を実施する予定である。

（４）　一般の人々に対する講演
研究成果を研究者が集まるセミナーやコンファレンスだけでなく、一般向けの講演を行い、多くの人々に研究の重要性を踏まえた上で研究成果をわかりやすく解説した。講演したのは、「ヒトと人の社会　－実験から読み解く経済と社会－」ナレッジキャピタル超学校　大阪大学×ナレッジキャピタル、CAFE Lab, グランフロント大阪、高校生向けの夢ナビ TALK、大阪大学経済学同窓会（大阪）、東京待兼会である。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 27 件）
①Sasaki Masaru, Pramod Kumar Sur、Migration and Natural Disaster: Ex-ante Preparedness and Contribution to Ex-post Community Recovery、Migration Studies、査読有、2018、印刷中
DOI: 10.1093/migration/mny006
②Kai Duttle, Keigo Inukai、Implications from biased probability judgments for international disparities in momentum Returns、Journal of Behavioral Finance、査読有、18 巻、2017、143-151
DOI: 10.1080/15427560.2017.1308937
③Yutaka Horita, Masanori Takezawa, Keigo Inukai, Toshimasa Kita, Naoki Masuda、Reinforcement learning accounts for moody conditional cooperation behavior: experimental Results、Scientific Reports、査読有、7 巻、2017
DOI: 10.1038/srep39275
④Sasaki Masaru、ランナーの心理　行動経済学で見る目標タイム　ゴール前の加速に科学的根拠、エコノミスト、査読無、2017 年 12 月 19 日号、2017、80-81
⑤Sasaki Masaru, Keigo Inukai, Keisuke Kawata、Committee Search with Ex-ante Heterogeneous Agents: Theory and Experimental Evidence、IZA DP、査読無、10760 巻、2017、1-48
⑥Yoichi Hizen, Keisuke Kawata, and Masaru Sasaki、An Experimental Test of a Committee Search Model、Behavioral Interactions, Markets, and Economic Dynamics、査読無、1 巻、2016、419-452
DOI: 10.1007/978-4-431-55501-8_15
⑦Koyo Miyoshi and Masaru Sasaki、The Long-Term Impact of the Nagano Winter Olympic Games on Economic and Labor Outcomes、Asian Economic Policy Review、査読有、11 巻、2016、43-65
DOI: 10.1111/aepr.12115
⑧Keisuke Kawata、Work Hour Mismatch and On-the-job Search、Economic Modelling、査読有、47 巻、2015、280-291
DOI: 10.1016/j.econmod.2015.03.009
⑨Kai Duttle and Kengo Inukai、Complexity aversion: Influences of cognitive abilities, culture and system of thought、Economics Bulletin、査読有、35 巻、2015、846-865
⑩Takao Asano, Hiroko Okudaira, and Masaru Sasaki、An Experimental Test of a Search Model under Ambiguity、Theory and Decision、査読有、79 巻、2015、627-637
DOI: 10.1007/s11238-015-9488-x

〔学会発表〕（計 12 件）
①佐々木　勝、Testing Reference-Dependent Model: A Laboratory Search Experiment、東京労働経済研究会、2018、東京大学、東京
②犬飼　佳吾、実験から読み解くヒトと人の社会、行動経済学会、2017、同志社大学、京都
③佐々木　勝、労働経済学における実験的手法、ブック・カンファレンス、2017、東京大学、東京
④Masaru Sasaki、Committee voting and moral: Laboratory experiments、2017 Asia-Pacific ESA Conference、2017、NTU college of social sciences

building、Taiwan
⑤佐々木　勝、Committee Voting and Moral: Laboratory、行動経済学会第 10 回記念大会、2016、一橋大学、東京
⑥Fukadai, M. & Inukai, K、How do the young and old generations of our society cooperate? : An economic experimental approach providing evidence for the overlapping generation mechanism、第 8 回日本人間行動進化学会、2015、総合研究大学院大学、神奈川
⑦Fukadai, M. & Inukai, K、How do the young and old generations of our society cooperate? : An economic experimental approach providing evidence for the overlapping generation mechanism、第 19 回実験社会科学カンファレンス、2015、東京大学、東京
⑧Kurokawa, H., Inukai, K., & Ohtake, F、Interval effect on the time preference elicited by the convex time budget method、ESA World Meetings、2015、University of Technology, Sydney, Australia
⑨Kurokawa, H., Inukai, K., & Ohtake, F.、Interval effect on the time preference elicited by the convex time budget method、行動経済学・行動ファイナンスのフロンティア、2015、大阪大学中の島センター、大阪

〔図書〕（計 1 件）
①佐々木　勝、森　知晴、有斐閣、日本の労働市場　経済学者の視点、2015、25

６．研究組織
(1)研究代表者
佐々木　勝（Sasaki, Masaru）
大阪大学・経済学研究科・教授
研究者番号：10340647

(2)研究分担者
安井　健悟（Yasui, Kengo）
青山学院大学・経済学部・准教授
研究者番号： 80432459

川田　恵介（Kawata, Keisuke）
東京大学・社会科学研究所・准教授
研究者番号：40622345

犬飼　佳吾（Inukai, Keigo）
大阪大学・社会経済研究所・講師
研究者番号：80706945